

調査・研究評価検討会議事要旨

1. 日 時 令和8年6月2日（火） 13時30分 ～ 16時30分

2. 場 所 財務省関税中央分析所 大会議室

3. 出席者

【外部専門家】

（座長）公益財団法人 総合安全工学研究所 専務理事

中 村 順

元 一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会 調査研究部長

嵩 比呂志

筑波大学 数理物質系 物理工学域 名誉教授

佐々木 正洋

【関税中央分析所】

所長 武 次 周 一

主任研究官 小 野 博 史

第1調査研究室長 斎 藤 崇 雄

第1調査研究室研究官 森 泉 智 史

第1調査研究室 上白木 祐 介

第2調査研究室長 横 山 正 士

第2調査研究室研究官 佐 藤 仁

第2調査研究室調査官 齊 藤 崇

（事務局）

総務課長 生 平 晃

総務係長 小 栗 充 裕

4. 議事概要

（1）調査・研究をとりまく背景等について、第1調査研究室長から説明が行われた。

（2）調査・研究課題について、大要次のような評価がなされた。

- X線CT装置の物質識別に関する調査研究（事後評価）

本調査研究で取り組んでいる小型間口のX線CT装置における薬物検知機能については、ほぼ完成していると認められるため、税関への配備を進めていただき、実運用において検証を進めてみるのが良い。

爆発物を高感度で検出するために開発された装置であったが、薬物を爆発

物のレベルまで開発できてきたことに驚愕している。

高速化という部分に関しては、GPUが更に進歩することを踏まえれば、更新していけば秒数を減らすことができる。

今後、税関への導入が進んでいくことで、本機能の効果が十分に発揮され、水際取締りの効率化に繋がることを期待したい。

以上のことから本調査研究は、十分な成果を得られたと評価できる。

(3) 意見交換が行われ、そのなかで次のようなご意見をいただいた。

当該検討会の概要をホームページに公表することや昨今の税関広報として協力しているテレビ番組の内容などに触れられ、どのような調査研究を実施しているのかも然り、様々な密輸手口を紹介することが密輸をする側への気づきを与えてしまっているのではないかと思料されるためご配慮いただきたい。一方で、これまでテレビ番組で紹介された密輸手口をAI分析することで、密輸を見破るためにはどのような点に着目すべきか、何らかの気づきが得られるのではないかとも思料される。